

ボケ役, ツッコミ役の発話タイミングから見る面白さに対する認識
 –日本語母語話者, 日本語学習者, 中国語母語話者の比較から–
**The Recognition of Humour with Special Reference of Utterance
 Timing of *Boke* and *Tsukkomi*:**
**A Comparison between Japanese Native Speakers, Japanese Language
 Learners and Chinese Native Speakers**

羅 希[†], 定延 利之[‡]
 Xi Luo, Toshiyuki Sadanobu

[†] 京都大学, [‡] 京都大学大学院文学研究科
[†] Kyoto University, [‡] Graduate School of Letters, Kyoto University
[†] luckyrarecosmos@gmail.com
[‡] sadanobu.toshiyuki.3x@kyoto-u.ac.jp

概要

話の面白さが, 発話のタイミング次第で活かされも殺されもするということは, 経験的に知られている。だが, 従来の研究は, 話の内容の面白さの解明に集中しがちであった。この発表は, 話の面白さを活かす発話タイミングに光を当て, 対話音声合成ツールを利用することによって, これが画一的なものではなく, 言語間で (つまり日本語と中国語で), また話の「型」ごとに違っていることを示し, その奥深さの一端を示そうとするものである。

キーワード: 面白さ, 発話タイミング, 漫才, 相声, 対話音声合成

1. はじめに

コミュニケーションを行動と状況に2分しようとする場合, 問題になるのが行動のタイミングである。というのは, 行動のタイミングは, 行動に属するようにも, 状況に属するようにも思えるからである。この発表は, コミュニケーションに対する我々の理解を深めるために, 発話という言語行動のタイミング (以下「発話タイミング」) を考察しようとするものである。

ただどしくつつかえる訥弁発話では, 発話のとぎれが多少長くても短くても, 聞き手が受ける印象は「ただただ非流ちょう」という以外に, あまり変わりようが無い。この発話の「非流ちょう性」と比べると, 発話の「面白さ」はタイミングに対して非常に敏感である。話の面白さが, 発話のタイミング次第で活かされも殺されもするということは, お笑い芸人でなくても, 誰しも日常生活の中で多かれ少なかれ経験していることだろう。逆に言えば, 面白い話は発話タイミングを

調べる上で格好の題材と言える。

だが, 話の面白さに関する従来の研究は, 話の内容 (いわゆる「ネタ」) の面白さの解明に集中しがちであった。そこで本発表は, 話の面白さを活かす発話タイミングに光を当て, この概念の奥深さの一端を示したい。より具体的には, 話の面白さを活かす発話タイミングが画一的なものではなく, 言語間で (つまり日本語と中国語で), また話の「型」ごとに違っていることを示す。そのために本発表では, 日本語の「漫才」とこれに対応する中国語の「相声」という対話型の話芸に着目し, 対話音声合成ツールという新たな手法を用いる。

以下, 先行研究を簡単に紹介し (第2節), 実験の方法論を述べた上で (第3節), 日中両語の比較 (第4節)・各々の言語における型どうしの比較 (第5節) をおこなう。最後に全体をまとめる (第6節)。

2. 先行研究とその問題点

面白さ(humour)については, 優越説(superiority theory)・不調和説(discongruity theory)・解放説(release theory)・遊び説(play theory)・傾き説(disposition theory)などさまざまな説が唱えられている (例: [1][2])。また, 面白さのうち, 発話の面白さについては, 言語学において, 言語哲学者の開発した言語行為論に依拠する形で, たとえばグライスの公理の違反によって生じるものとして分析されている (例: [3][4])。

これらの先行研究は各々の時代において先導的な意義を果たし, また今日目で見ても意義深いものではあるが, 以下の2点において, 十分なものとは言えない。

いということもまた事実である：第1点，先行研究は面白さの源泉つまり「ネタ」(comic amusement)を論じること集中しており，そのネタの「語り方」が面白さを左右する可能性が論じられていない；第2点，先行研究は言語差が考慮されていない。

この発表では発話タイミングを考察対象とし，その2つの多様性（言語どうしの違いと「型」どうしの違い）を実験により示すことによって，先行研究に欠けていた，話し方に対する注視の姿勢を部分的にせよ補いたい。話の面白さが言語間で様ではないということは，我々の研究でも示されてきたことであるが（例：[5][6][7][8][9][10][11]），この発表ではこれを発話タイミングという形で，比較する2言語（日本語と中国語）の面白い話（漫才・相声）の型を揃えた上で実験により示す。

3. 用いる手法

この発表で用いる手法を，実験刺激・ツール・実験参加者・指示の順に紹介しておく。

まず実験刺激について。「話の内容ではなく，発話タイミングが，面白さにどう影響するか？」という問題を，日本語・中国語を通して調べるには，まず，日本語と中国語の，同じ内容の面白い話を用意する必要がある。日本語の「漫才」と中国語の「相声」は，おかしいことを言う人物（「ボケ」「逗眼」と，それに反応するまともな人物（「ツッコミ」「捧眼」と）の対話によって面白さを醸し出す話芸という点で共通しているので，漫才・相声の形式を選んだ。さらに，著作権の問題に煩わされないよう，第2発表者が（一部は揣迪之氏の協力を得て）自作した。第1発表者の直観に基づき漫才・相声の面白さを4つの「型」に分類し，いずれの型の漫才・相声にも含まれ得る，なるだけわかりやすい，核となる対話を作った。その対話を次の(1)に示す。Bはボケ役，Tはツッコミ役である。（以下も同様。）

(1)

日本語版

B：その猿が，そうそう，奥さんお元気ですか？

T：おい！

中国語版

B：那个猴儿啊，哦对了，最近您爱人身体好吗？

T：去！

念のために述べておくと，これはボケ役Bがツッコミ役Tをトボけた形で巧みにからかい，Tがそれに憤慨するという対話である。ここでのからかいは，Bが「猿の話をしている最中にTの夫人を思い出した」という自分の意識の推移をそのまま言語化することで，自分がTの夫人を猿に似たものと位置づけていることをTにあからさまに示す，という形で果たされている。これは，伝統的な漫才コンビ「夢路とし・喜味こいし」がよく見せた対話パターンであり，中国語の相声に訳しても面白さが保たれることを第1発表者が確認した上で，これを核の対話として採用した。

この核の対話を（必ずしも厳密にはではないが）包む形で，4つの異なる「型」の漫才・相声の台本を完成させた。4つとは「一次型」「蓄積型」「拡大型」「呼応型」であり，これらは展開の仕方が異なっている。以下，核の対話を包み込んだ4つの型を紹介する。（核の対話の部分に下線を付しておく。）

まず，一次型とは，（後の蓄積型・拡大型・呼応型の場合と比べて）ネタと先行文脈との繋がりが希薄な型である。いわゆるフリの部分が無く，それ自体でおかしなボケと，それに対するツッコミで構成される。次の(2)は，実験で使用した一次型のセリフであり，核の対話に「で，動物園で」「说到动物园的」という文脈や状況に関する発話が僅かに加わったに過ぎない。

(2)

日本語版

1.B：で，動物園でその猿が，そうそう，奥さんお元気ですか？

2.T：おい！

中国語版

1.B：说到动物园的那个猴儿啊，哦对了，最近您爱人身体好吗？

2.T：去！

次に，蓄積型とは，面白さを含まないフリを持つ型で，対話中に何らかのフレームが構築された段階ではじめてネタが提示される型を指している。言い換えるなら，蓄積型においては，ネタが話される段階まで，BとTは面白さの無い対話を一時的に続け，その後の話を準備する。次の(3)は，実験で使用した蓄積型のセリフである。

(3)

日本語版

1.B: イノシシの病気は治りましたか?

2.T: はい, おかげさまで.

3.B: カバも寒さで弱ってましたが.

4.T: 暖かくなって, 快復しました.

5.B: トドの体調はどうですか.

6.T: ありがとうございます. 水温が上がって, 安定しました.

7.B: 奥さんお元気ですか?8.T: おい!

中国語版

1.B: 你们动物园那野猪的病治好了吗?

2.T: 好了, 托您的福.

3.B: 前些日子听说那河马也着凉了.

4.T: 最近天儿暖和, 就恢复了.

5.B: 那个海狮的身体情况怎么样?

6.T: 谢谢您想着了. 这水温一上升, 也没什么大事儿了.

7.B: 最近您爱人身体好吗?8.T: 去!

B と T は, 6 行目までは似通った問答を重ねて, 動物園の動物の体調に関する問答というフレームを作る. そこには面白さは一切含まれていない. フリが構成された後, B は 7 行目で相手の奥さんの体調を聞くことで, 「ツッコミ役の奥さんはイノシシ, カバ, トドと同類である」とほのめかし, T は 8 行目で「おい!」とツッコミを入れる. 蓄積型の紹介は以上である.

また, 拡大型は, 蓄積型に似ており, フリというフレームが構成されてはじめてネタが語られるという類のものだが, 蓄積型が, フリの部分に面白さのある話を含まないのに対し, 拡大型では, 面白さがフリの冒頭部分に現れ, 後のやり取りの中でこれが次第に大きくなる. 言い換えると, B がおこなう複数の発話には, 面白さが含まれ続けるが, ネタが語られる時点で面白さがピークに達する. 次の(4)は, 実験で使った拡大型のセリフであり, ここでは B と T は面接のコントのような漫才を演じている. B は面接を受ける応募者で, T は面接官である.

(4)

日本語版

1.T: では面接を始めます. ええと, ご出身は?

2.B: 大阪です. あなたの奥さんと, 同じですね.

3.T: …… [小声でひとりごと] こわい奴だなー. ええと, 特技はなにかありますか?

4.B: しいて言えば, 人妻の情報を探ることですかね.

5.T: なんだそれ! ええと, うちが力仕事結構あるけど, 体力に自信は?

6.B: あります. 鍛えてますから大丈夫です. ところで奥さんお元気ですか?7.T: おい!

中国語版

1.T: 好, 面试现在开始. 你老家是哪里的呀?

2.B: 北京的. 这跟您爱人一样, 对吧.

3.T: …… [小声说] 这叫什么人哪. 那你这个人有什么特长吗?

4.B: 非要说的话呀, 我这人特别擅长打探别人老婆的各种信息.

5.T: 什么特长啊这叫? 那个, 我们这儿体力活可不少, 你身体没问题?

6.B: 没问题. 我这人经常锻炼身体倍儿好. 哦对了, 最近您爱人身体好吗?7.T: 去!

B の 2 行目の「あなたの奥さんと同じ出身地である(ことを知っている)」, 4 行目の「(特技は) 人妻の情報を探ること」は, 面接を受ける人間のセリフとしてはありえないという点で面白さが次第に大きくなる. それに対して T は 3 行目で「こわいやつだなー」, 5 行目で「なんだそれ!」と軽くツッコミを入れる. さらに, 最後の 6 行目で B は「(私は元気ですが) ところで奥さんお元気ですか」というセリフを発して, 面接官の夫人の最新情報を収集しようとする. 面白さがピークに達するのはここで, それに対して T は「おい!」とツッコミを入れる. 拡大型については以上である.

最後の呼応型は, 先行研究の「点在型」([12]) に似ており, 同じネタが何度も現れ, 首尾呼応の形で語られるものを指す. また, ネタと次のネタの間に直接に関係のない内容も挟まれ, 次のネタのフリとして存在する. 次の(5)は, 実験に使われた呼応型のセリフである.

(5)

日本語版

1.B: で, 動物園で, その猿が, そうそう, 奥さんお元気ですか?2.T: おい!

- 3.B: いや、こないだ、うちの家内が転んで、足けがしちゃいましてねー。
- 4.T: えっそうなの！
- 5.B: ちょうど、山登りに行ってたんですけど、
- 6.T: うん
- 7.B: いや、そこって、野生の猪とか、猿とかがいるんですよ。で、その猿が、そうそう、奥さんお元気ですか？
8. B: おい！
- 中国語版
- 1.B: 诶，说到动物园的那个猴儿啊，哦对了，最近您爱人身体好吗？
- 2.T: 去！
- 3.B: 不是，我说我爱人哪，这两天摔跤把脚给崴了，
- 4.T: 哎呀是吗。
- 5.B: 她呀，跟人出去爬山，
- 6.T: 哦。
- 7.B: 嗨，一到那山里呀，又有野猪，又有猴儿的。说到那个猴儿呀，哦对了，最近您爱人身体好吗？
- 8.T: 去！

(4)の冒頭部分でBは「奥さんは猿に似ている」というネタを語り、それに対してTは「おい！」とツッコミを入れる。だが、その直後にBは「いや」と即応して、からかいの意図を否定してみせ、続いて「自分の妻が山登りに行って足を怪我した」と言うことによって、自分がTの妻の体調を問うたのは他意があつてのことではない、自分の妻が怪我をしているからTの妻はどうかと思って訊いたまです、ととれそうな発話をおこなう。これにTが釣り込まれて「えっ、そうなの？」と応じ、Bは「その山には野生の猪とか、猿とかがいる」と、自身の妻が怪我をした登山の場面の描写に入っていくが、それは実は「猿」を再度持ち出す布石、フリである。7行目の後半から、Bは再度「相手の奥さんは猿に似ている」とTをからかい、冒頭部分と同じ種類のネタを繰り返している。それに対してTは再び「おい！」とツッコミを入れる。呼応型については以上である。

次に音声刺激の作成について。以上で紹介してきた日中の漫才・相声の4種のセリフを、日本語母語話者と中国語母語話者（いずれも男性）数名に依頼し、その「台本」どおりに実際に漫才を演じてもらった（支障無い限り有償とした）。その音声を、ガラス窓を隔てられた2室の防音室から成る対面式録音ブース（画像

1)を使って、別々に収録した。それらの音声の中から、



画像1：対面式録音ブースの内観
(YAMAHA AVITEX)

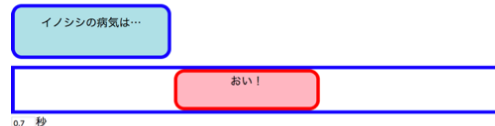
4つの型のいずれにも最も自然に当てはまると思える核の対話音声（すなわちBの「奥さんお元気ですか？」「最近您爱人身体好吗？」発話とTの「おい！」「去！」発話のセット）を選び、4つの型のうち選ばれたその1つの型だけでなく残り3つの型も下線部分がその対話音声になるよう、音声を差し替えた。つまり核の対話の部分共有する、4つの型の漫才・相声対話音声を作成した。

次に実験ツールについて。実験ツールとしては、発表者らの研究グループで使用している ([13][14])、対話音声合成ツールを使用した。このツールは画像2・画像3のようなブラウザ画面を介して、実験参加者が発話タイミングを自由に調節して対話音声を合成できるものである。

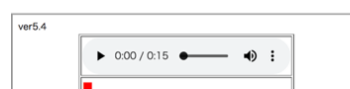
www.speech-data.jp/timing/manzai_jp02.html?0605

漫才タイミングテスト02

A: イノシシの病氣は治りましたか？
B: はい、おかげさまで。
A: カバも寒さで弱ってましたが。
B: 暖かくなって、回復しました。
A: トドの体調はどうですか？
B: ありがとうございます。水温が上がって、安定しました。
A: 奥さんお元気ですか？
B: おい！



面白いと思われるタイミングの幅（何コマ何秒から何コマ何秒）を結果記入欄に記入し、送信してください。
結果記入欄はこのページの一番下にあります。 [トップページへもどる](#)



画像2：対話音声合成ツール（日本語の場合）

日本語を例にとって説明すると、パソコン画面の上部

には、1つの漫才対話の台本が文字で表示されており、



画像 3：対話音声合成ツール（中国語の場合）

それと共に、画面中央には、青いバー（上側）、赤いバー（下側）が表示されている。この赤いバーは漫才末尾の「おい！」発話であり、青いバーは漫才冒頭部から「おい！」直前までの発話である。画面上、青いバーは固定されており動かないが、赤いバーはドラッグ操作により左右に動くようになっている。この左右の移動操作は、T の「おい！」発話のタイミングと連動しており、操作の結果は画面下部の合成ボタンを使って、実際の対話音声の形で聞くことができる。この操作は、0.1 秒刻みになっており、マイナスに（つまり B の発話が終わらないうちに T の発話が「食い気味」に始まるように）設定することもでき、また、何度でもやり直すことができる。タイミングの操作を 0.1 秒刻みにした措置については後で説明する。

最後に、実験の手順について。実験参加者は計 67 名（インターネットを介した形のため有償は困難であった）、内訳は、漫才は聞くことがあるが相声に接したことは無い日本語母語話者 24 名、相声は聞くことがあるが漫才は聞いたことが無い中国語母語話者 22 名、そして漫才と相声を両方とも聞くことがある、中国語を母語とする日本語学習者 21 名の計 3 群である。日本語母語話者には日本語版、中国語母語話者には中国語版の実験を受けてもらい、日本語学習者にはその両方を受けてもらった。

実験参加者には、インターネット上に上げた実験のページにアクセスし、そのページに書かれている指示、つまり 4 つの漫才・相声各々について、赤いバーを左

右に移動させて最後の「おい！」発話のタイミングを調整し、その漫才・相声が最も面白くなる時間幅（たとえば「マイナス 1.0 秒～0.5 秒」）を調べて回答するという課題を理解した上で操作に進むよう指示した。テストページのトップ画面と入力画面（いずれも日本語版）を画像 4・画像 5 として挙げておく。回答は、実験参加者が必要性を感じれば複数個の回答が可能になるよう設定されている。



画像 4：テストページのトップ画面（日本語版）



画像 5：結果の入力画面（日本語版）

最も面白い「時点」ではなく、「時間幅」の形での回答を指示したのは、「時点」での回答を指示すると、或る実験参加者の回答した時点と、別の実験参加者の回答した時点が、基本的に同一種の変異なのか、それとも別種に属するものなのかが判断できないからである。「時間幅」の指示にもかかわらず実験参加者が「時点」で回答してきた場合は、その「時点」の前後 0.1 秒、合計 0.2 秒間の「時間幅」を回答したものとして扱った。発話タイミングの操作を 0.1 秒刻みとしたのは、

この幅が「発話タイミングの違いによる印象差を逃さないほど細かく」かつ「実験結果を集計しやすいよう粗く」という二律背反的な要請の間でのベストバランスであるという発表者らの判断による。

以下、得られた結果を2つに分けて述べるが、その際、焦点となる部分をより明確に示すため、取り上げる区間を、最後のBの発話が終了する1秒前から、終了後1秒までとしていることを断っておく。その区間以外の回答はごく稀で、除外しても全体の結果に大きな影響を与えないと判断している。

4. 結果1：日中両語の比較

ここでは、日中両語の比較をおこない、それを通して、先行研究との対応も確認する。

漫才と相声の「間」について、実際のテレビ番組に放送されているものを比較すると、日本のコンビは中国のコンビより単位時間内の無声区間が短く、かつ間髪を入れずに話者交替をされている([15])。実験結果は、この先行研究の観察と合致するものであった。

4つの型ごとに、各群の実験参加者の選好するツッコミの発話タイミングを集計した。結果を図1に示す。

図1は、一次型、蓄積型、拡大型、呼応型において、

日本語母語話者（実線）、中国語母語話者（三角マーカーがついている実線）、日本語学習者（点線は日本語版、破線は中国語版）の選好するタイミングの分布を示したものである。横軸はタイミング（0.1秒を1つの区間として）、縦軸は各タイミングの区間が選好された回数、4種の折れ線は各々の群において、各タイミングの区間が選択された合計回数を示している。各群のピーク（選択される回数が最も高いタイミングの区間）を一つの目安とすると、次のような観察結果が得られる。

まず一次型の場合。ツッコミのタイミングが最も選好される区間は、日本語母語話者が最も早く（-0.1秒～0秒）、その次は日本語学習者の日本語版である（0秒～0.1秒）。それらに比べて中国語母語話者（0.2秒～0.3秒）、日本語学習者の中国語版（0.3秒～0.4秒）はやや遅いことがわかった（早さ：日本語母語話者＞日本語学習者の日本語版＞中国語母語話者＞日本語学習者の中国語版）。

次に蓄積型の場合。やはり全体を見ると日本語版の回答が中国語版より早い傾向がある。また、日本語学習者の日本語版（-0.1秒～0秒）は日本語母語話者（0秒～0.1秒）より早く、中国語母語話者（0.1秒～0.2秒）は日本語学習者の中国語版（0.2秒～0.4秒）より早い傾向が見られた（早さ：日本語学習者の日本語版＞日本語母語話者＞中国語母語話者＞日本語学習者の中国語版）。

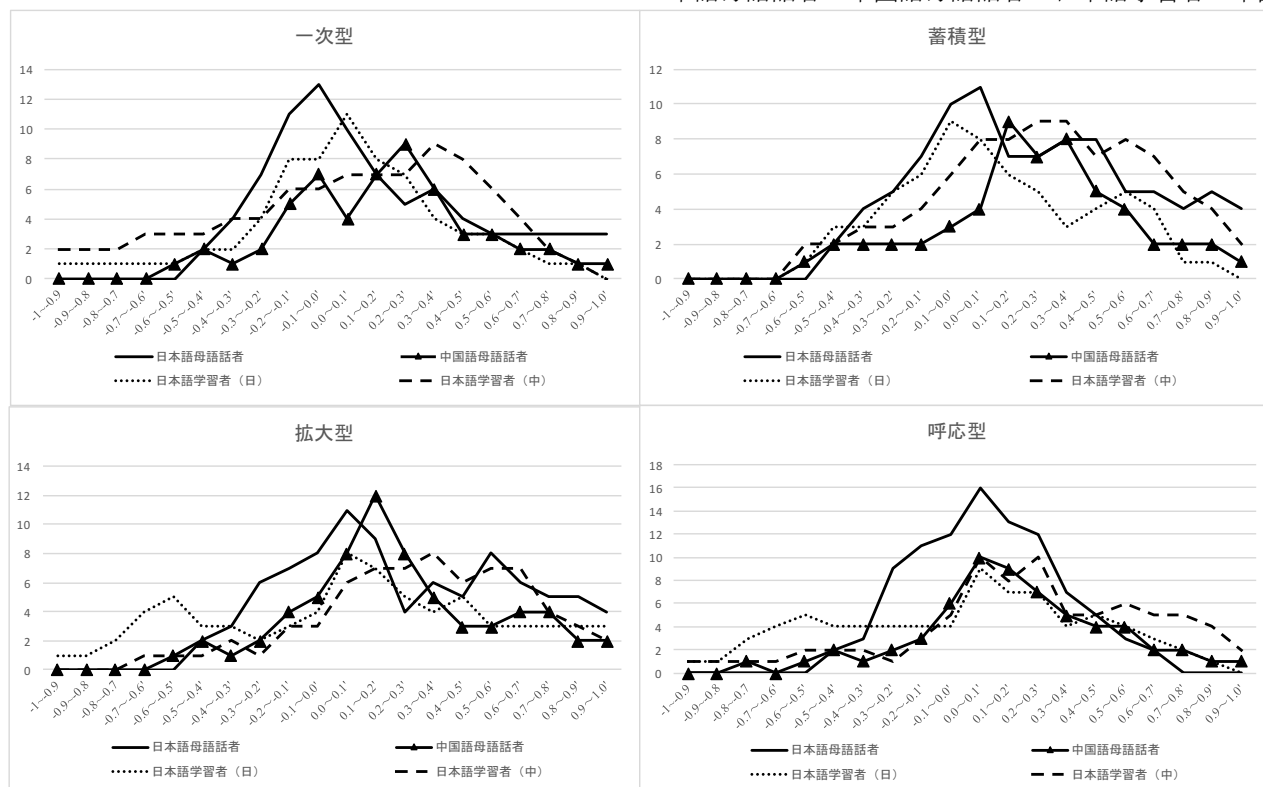


図1 4つの型における各群が選好するツッコミ発話のタイミング

語版)。

さらに拡大型も一次型、蓄積型と同様に、日本語版は中国語版より選好されるツッコミのタイミングが早い。拡大型において、日本語母語話者と日本語学習者の日本語版の早さは同じ(0秒~0.1秒)であり、中国語母語話者(0.1秒~0.2秒)、日本語学習者の中国語版(0.3秒~0.4秒)より早いことがわかった(早さ:日本語母語話者・日本語学習者の日本語版>中国語母語話者>日本語学習者の中国語版)。

最後に呼応型の場合。この場合は、他の3つの型と異なり、日本語母語話者、中国語母語話者、日本語学習者(日本語版・中国語版)の間に顕著な違いが見られず、0秒~0.1秒という区間で選択される回数が最も多い(ただし、日本語学習者の中国語版には「0.3秒~0.4秒」の区間にもう1つのピークがある)。

4つの型において、各群の選好するツッコミのタイミングの違いを観察した結果をまとめると、一次型、蓄積型、拡大型のいずれの型においても、日本語版での回答(日本語母語話者・日本語学習者)は中国語版での回答(中国語母語話者・日本語学習者)より早いと言える。この結果は先述[15]の結論と結びつく。さらに、中国語を母語とする日本語学習者が、中国語母語話者と一定の類似を示したことも、「ピークに着目する」という本発表の観察法が、目安として有効であることを示していると考えられる。

また、呼応型においては、顕著な言語差が見られず、

各群の選好するツッコミのタイミングがほぼ同じであることがわかった。これについては次節の結果を先取りして言えば、呼応型は他の型と比べて、日本語母語話者と日本語学習者(日本語版)の選好タイミングはより遅く、中国語母語話者と日本語母語話者(中国語版)の選好タイミングはより早い。これが上記の結果を生んだと考えられる。

5. 結果2: 両語内部での型どうしの比較

日本語母語話者、中国語母語話者、日本語学習者が各々の型について選好した発話タイミングの分布を図2に示す。図2の横軸はタイミングの時間軸(0.1秒を1つの区間として)、縦軸は各タイミングの区間が選好された回数、折れ線は各々の型において、各タイミングの区間が選好された回数をつなげたものである(一次型:実線、蓄積型:破線、拡大型:三角マーカーがついている実線、呼応型:点線)。ここでも型ごとのピークに着目すると、以下の結果を得る。

日本語母語話者の場合、一次型は他の3つの型よりも、選好されるタイミングが早い(早さ:一次型>蓄積型・拡大型・呼応型)。言い換えると、日本語母語話者にとって、フリがないボケに対して、ツッコミのタイミングがより早い方が面白く認知される傾向がある。

中国語母語話者の場合、呼応型で選好されるタイミングが最も早い。また、蓄積型、拡大型は呼応型より

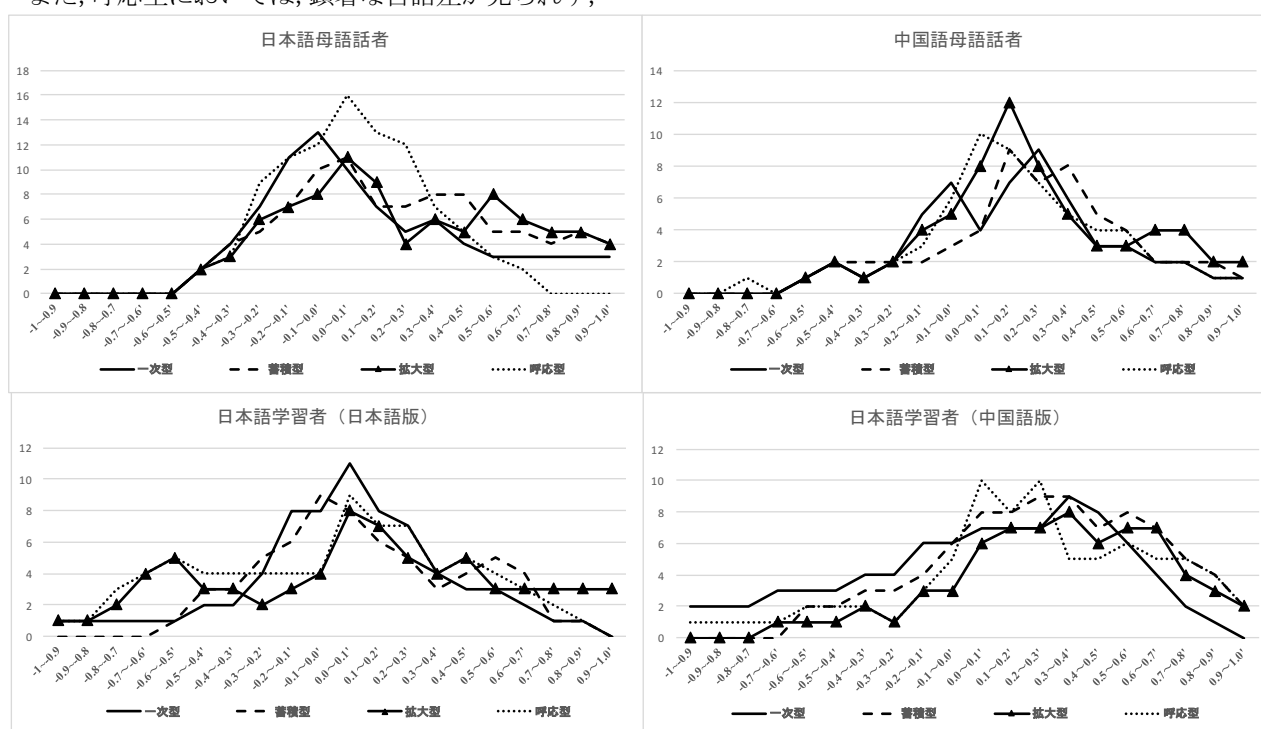


図2 日本語母語話者、中国語母語話者、日本語学習者が各々の型について選好した発話タイミングの分布

遅いが、一次型より早い（早さ：呼応型＞蓄積型・拡大型＞一次型）。したがって、中国語母語話者は日本語母語話者と異なり、フリがない一次型でのツッコミのタイミングが最も遅く、同じネタが2度現れる呼応型で選好するツッコミのタイミングが最も早いと言える。

また、日本語学習者の結果を見ると、日本語版と中国語版で異なる傾向が見られた。日本語版では蓄積型は他の3つの型より選好されるタイミングが早い（早さ：蓄積型＞一次型・拡大型・呼応型）のに対し、中国語版では呼応型が最も早く、その次の蓄積型は一次型、拡大型より早い（早さ：呼応型＞蓄積型＞一次型・拡大型）ことがわかった。つまり、日本語学習者は、漫才（日本語）について、面白さを含まないフリの部分がある蓄積型ではツッコミのタイミングが早い方が面白いと認知する傾向があり、これは日本語母語話者の回答傾向と異なっている。一方、相声（中国語）については、漫才に接したことのない中国語母語話者と同じく、同じネタが2度現れる呼応型が選好されるツッコミのタイミングが最も早い。

このように、「同一のネタが異なる型で提示されれば、面白いと認知されるツッコミのタイミングが異なる」という傾向は、調査された日本語母語話者（日本語版）、中国語母語話者（中国語版）、日本語学習者（日本語版と中国語版）のいずれの群にも見られた。ただ、各群において、4つの型と、それらに対応する、好みのツッコミのタイミングには違いがある。中国語母語話者および日本語学習者（中国語版）は、呼応型で選好するツッコミのタイミングが他の型に比べて早い方が面白いと認知しやすい。一方、日本語母語話者にとっての一次型や、日本語学習者（日本語版）にとっての蓄積型では、ツッコミ発話のタイミングは他の型に比べて早い方が面白く感じられやすい。このことから示唆されるのは、漫才と相声の両方に接したことのある日本語学習者は、4つの型と、それらに対応する、好みのツッコミのタイミングが、日本語母語話者とは異なっているが（日本語版の場合）、中国語母語話者とは類似している（中国語版の場合）ということである。

6. おわりに

本発表では、漫才・相声という互いに類似する対話型の話芸と、対話音声合成ツールを用いることによって、面白いと認知される発話タイミングを調べた。

その結果、同一のネタが一次型、蓄積型、拡大型、

呼応型のどの型で演出されるかによって、面白いと認知されるツッコミの発話タイミングが異なるという傾向は、日本語母語話者（日本語版）、中国語母語話者（中国語版）、日本語学習者（日本語版と中国語版）のいずれの群にも見られた。また、各群において、4つの型と、それらに対応する、好みのツッコミのタイミングには違いがある。

さらに、各々の型において、各群の選好するツッコミのタイミングに違いが観察された。一次型、蓄積型、拡大型のいずれの型においても、日本語版での回答（日本語母語話者・日本語学習者）は中国語版での回答（中国語母語話者・日本語学習者）より早く、呼応型においては、顕著な言語差が見られず、各群の選好されるツッコミのタイミングがほぼ同じであることがわかった。

選好される発話タイミングが、型によって、また言語によって違うとは、どういうことだろうか。これは「間」と呼ばれているものが真空状態のような文字通りの間ではなく、音声（や身振りなど）には現れない「不作為」の形をとるけれども、たとえば、たじろぎ、逡巡、そしてつかの間の沈黙思考のような、コミュニケーション行動に満ちていることを示しているのではないか。「間」の型ごとの違い、言語ごとの違いを理解するには、これをコミュニケーション行動ととらえることが最も素直な道と考えられるからである。だが、この点は並行して展開している別の研究[14]と併せて、さらに検討を続けていきたい。

付記

実験やそれに先立つ実験刺激音声作成に関わって頂いた匿名の協力者諸氏に感謝する。また、発話タイミング調整ツールの開発について田畑安希子氏にお世話になった。お名前を挙げて謝意を表したい。なお本発表は、日本学術振興会の科学研究費補助金による挑戦的萌芽研究 15K12885・基盤研究(B)17KT0059 の成果の一部である。

参考文献

- [1] Carroll, Noël, (2014) *Humour: A Very Short Introduction*. New York: Oxford University Press.
- [2] Raskin, Victor, (1985) *Semantic Mechanisms of Humor*. Dordrecht: D. Reidel.
- [3] 小泉保, (1997) *ジョークとレトリックの語用論*, 東京: 大修館書店.
- [4] 金水敏, (1992) “ボケとツッコミ—語用論による漫才の

- 会話の分析—，上方の文化 上方ことばの今昔，Vol.13，pp.61-90，大阪：和泉書院。
- [5] ヴォーゲ=ヨーラン，(2018) “やりとりから生まれる面白さについて—「ちょっと面白い話」のツッコミを中心に—”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.110-127.
- [6] 山元淑乃，(2018) “「わたしのちょっと面白い話」のフランス語訳をめぐって—フランス語訳をめぐる「後思案」—”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.210-245.
- [7] 新井潤，孟桂蘭，(2018) “「わたしのちょっと面白い話」の中国語訳をめぐって”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.246-269.
- [8] 森庸子，アンソニー=ヒギンズ，(2018) “「わたしのちょっと面白い話」の英語訳をめぐって—一日英の言語文化的異同とユーモア—”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.270-285.
- [9] イリーナ=プーリク，奥村朋恵，(2018) “「わたしのちょっと面白い話」のロシア語訳をめぐって”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.286-303.
- [10] 林良子，国村千代，(2018) “「わたしのちょっと面白い話」を題材とした日仏遠隔授業の試み”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.342-349.
- [11] 櫻井直子，ダヴィッド=ドゥコーマン，岩本和子，林良子，楯岡求美，(2018) “エスニック・ジョークと倫理”，定延利之編，限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究，東京：ひつじ書房，pp.350-441.
- [12] 安部達雄，(2005) “漫才における「ボケ」の質的特徴と形態的特徴”，早稲田日本語研究，Vol.13，pp.61-72.
- [13] 羅希，(2016) “日本語の相づちの頻度とタイミングに関する総合的考察”，日本語音声コミュニケーション，Vol.4，pp.23-47.
- [14] 宿利由希子，ヴォーゲ=ヨーラン，林良子，定延利之，(2018) “ユーモアを生み出すための「間」—ボケとツッコミのタイミングに関する考察—”，日本認知科学会第35回大会発表資料.
- [15] 趙曼，鈴木紀子，阪田真己子，(2013) “漫才と相声のタイミング構造の分析—芸能身体文化の日中比較—”，信学技報，Vol.HCS2013-21，pp.167-172.